

立命館大学考古学論集Ⅱ 目次

西日本の縄文集落	矢野健一	1
玦状耳飾についての考察	国重佐夜子	19
弥生時代年代論・揺籃期の学史	用田政晴	33
弥生時代の青銅器鑄造工房とその復元	神崎勝	39
山梨県出土の磨製石鏃—その形態と分布について—	村松佳幸	55
野洲町富波前方後方型周溝墓の年代とその性格 —角健一氏への反論—	丸山竜平	71
三角縁神獣鏡の細部表現について—紐座を中心に—	田邊朋宏	83
初期埴輪と土器—天理市東殿塚古墳の埴輪配列とその意義—	青木勘時	97
茶臼山型二重口縁壺と前期古墳の朝顔形埴輪 —頸部製作技法からみた系譜関係について—	廣瀬覚	113
倭の五王と將軍章—東アジアの国家秩序をめぐる—	久米雅雄	137
韓国古墳副葬品の脚台打ち欠き祭祀	浅岡俊夫	159
東海の飾大刀	岩原剛	175
兵庫県加東郡社町所在小丸山1号墳の再検討	中村浩	199
東播磨の後期古墳に見られる改造の一例	神崎恵子	219

道路状遺構と「磯齒津路」－長原遺跡の交通史的検討－	京嶋 覚	233
島宮について	湊 哲夫	251
日本古代都城の条坊施工の一側面 －幅員が変化する条坊道路の存在－	武田 和哉	265
鶉の瀬の谷を歩く	水野 和雄	283
天平宝字2年瑞祥発見をめぐる諸問題	泉 武	295
因幡・伯耆における中世前期の貿易陶磁器	八峠 興	311
茶碗の瓶子	梅川 光隆	327
中世石造宝塔の性格	小林 義孝	339
南北朝・室町時代における興福寺の造営と瓦	藪中 五百樹	361
物集女城の研究－土塁構築のプロセスと比較検討－	山口 均	393
伏見人形の成立と発展をめぐる二つの背景 －近世窯業の発展と精神文化－	木立 雅朗	411
鑄鏡研磨－山本鳳龍のわざ－	原田 三壽	431
小規模市町村立博物館の活路 －地域に密着した博物館活動の模索－	山本 一博	445